

美女医4人「熟女とSEX」その技法と甘美な快感 が特別講義

◆性欲の大ピークそれが熟女◆これが「熟女向け体位」決定版!◆熟女は総じて「上付き」◆「べた寝め」で濡れるメンタル

覆面記者 座談会 **スポーツ紙はどうしてつまらなくなったのか**

生活防衛術 **スマホ「通話料0円」裏技完全マニュアル** **やっぱり凄かった! 大富豪アニキ** **豪邸公開** **久嬢先生のラブレッスン**
今秋iPhone5登場でサービス過熱

2012 SEP.
9.14

400yen 特別定価

アメリカに潰される橋下

対談 孫崎享×
緊急 長谷川幸洋

情報公開請求でスッパ抜き **検察不祥事「内部処分」の噴飯**



医師たちが選んだ

ザ・ゴッドハンド 天才手術医34人

技術、執刀数からその「哲学」まで

サラリーマン必読「もしも会社が消えたら」シャープ6万人の場合

米外「尖閣沖海戦なら日本が圧勝」
の衝撃
創部111年「早大野球部」夏物語

ああ懐かしの昭和の野球場
いまはなき

“聖地”後楽園スタジアム 藤井寺球場に躍った猛牛たち
閑古鳥鳴く川崎球場 ハイソな阪急西宮スタジアム
野武士燃ゆ平和台球場 大阪球場は盗聴されていた

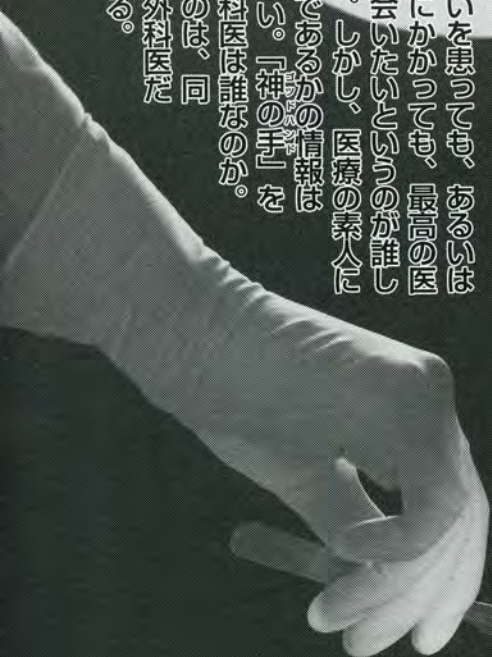
16ページ完全保存版

医師たちが選ぶドクターズ・ドクター

ザ・ゴッドハンド 天才手術医 34人

技術、臨床・執刀数から
その「哲学」まで

自分が病いを患っても、あるいは家族が病気にかかっても、最高の医師にめぐり会いたいというのが誰しもの本音だ。しかし、医療の素人には誰が名医であるかの情報は極めて乏しい。「神の手」を持つ天才外科医は誰なのか。それを知るのは、同業者である外科医だけなのである。



心臓の機能が低下し、一時は危険な状態に陥っていた天皇陛下の叔父・三笠宮崇仁さま（96）が、7月に都内の病院で心臓手術を受け、歩行ができるまで順調に回復した。

96歳の高齢で手術を受けた三笠宮さまの並外れた体力もさることながら、心臓外科医の間では「順調なご回復は、手際のいい手術があったから」といわれている。事実、手術は2時間半と短時間で終了している。

また、2月に冠動脈バイパス手術を受けた天皇陛下も術後1か月足らずで東日本大震災の慰霊祭に出席するなど、以後、精力的に公務をこなしている。お二人の順調な回復は、確かな腕を持った名医の存在が大きいといえよう。

一方、未熟な心臓外科医により働き盛りの50代、60代が手術で命を落とす悲劇も後を絶たない。

ある心臓外科医は、こんな例を話してくれた。

「地方の大学病院で、患者さんの心臓を6時間も止め

保存版 「医療最前線レポート」

て、大掛かりな心臓手術を行なった。普通、心臓を止める時間は3時間以内、4時間を超えると危険域。患者さんは亡くなりました」

それでも執刀した外科医は「あくシデントだった」と主張。手術経験がほとんどなかったという。

医療の進歩により、手術の安全性は以前より格段に高まっている。とはいえ、医師の力量次第では、最新の技術が何の役にも立たない。名医との出会いで命を救われ、健康を取り戻すこともあるし、逆に未熟な医師により命を落とすこともあるのだ。

だからこそ多くの患者は、自分の命を託せる名医「ゴッドハンド」探しに懸命になる。しかし、残念ながら、医療知識のない患者にとつて、どの医師が優れた腕を持っているのかを知るのは至難の業だ。

日本で最初に「ゴッドハンド」と呼ばれた外科手術の名医、中山恒明氏（故人、東京女子医大消化器病センター創立者）に師事した喜多

村陽一・東京女子医大消化器病センター教授はいう。「今はどの医療機関でもHPで診療内容や医療スタッフを紹介し、いわゆる名医本も多数出ています。が、これらにはマイナスの情報も載らないので本当の実力はわからない。医師の専門技術をきちんと評価できる

心臓

執刀医の手術の技量が最も問われるのが心臓外科医だ。代表的な冠動脈バイパス手術は、心臓の表面にある冠動脈の根本の血管に別の血管をつなげて血流を改善する手術だが、直径2mmの血管をつなぐ技術は職人技といわれる。

「どんな細かい血管でもバイパスを繋げる技術の持ち主と評判なのが東京ハートセンターの南淵明宏先生です。天皇陛下の心臓手術の執刀をした天野篤先生も流れるように美しい手術をする」と絶賛しているほど」（都内大学病院の心臓外科医）

のは同じ専門技術を持った医師しかいません」

つまり、外科系の名医を一番知っているのは、同じ外科医というわけだ。そこで本誌は外科医として経験を積んだ複数の医師に取材し、それぞれの専門領域で信頼できる名医を推薦してもらった。

バイパス手術は中高年男性の突然死の多くを占める狭心症や心筋梗塞の治療として行なわれるが、南淵医師の独壇場といわれているのが、「小切開冠動脈バイパス手術＝miniCABG（ミニドッキング）」。

わずかに8cm程度の切開により、冠動脈で一番重要な左前下行枝という部分にバイパスを縫い付ける低侵襲痛みや出血などが少ない。

脳

くも膜下出血の回復率が3日以内の手術で8割と高率

脳出血や脳梗塞で突然倒れる著名人は多い。最近では、歌手の桑名正博（59）

手術だ。小さな傷口から心臓が動いたまま行なうため、難しい手術とされる。南淵医師は、この難手術を16年間で600件近く行なっている。

「手術は2時間程度で終了します。患者さんにとって安全で輸血も必要ない手術ですが、外科医にとつてはリスクのある難しい手術で、やっている人は少ないと思います」（南淵医師）

その南淵医師が尊敬する名医の一人が岡山大学医学部血管外科の佐野俊二教授だ。小児心臓外科医として世界的に知られ、他の病院で見放された患者を数多く救ってきた。若い時から国内外で修業を積み、特にメ

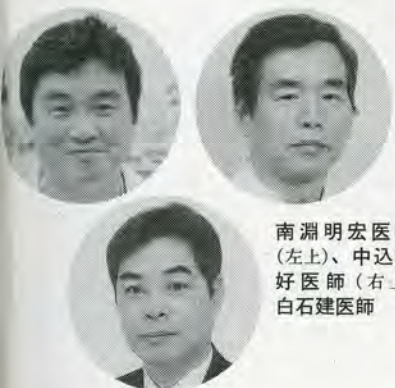
ルボルン小児病院では世界的に名高い心臓外科医について師事し、毎日4例の心臓手術を3〜4時間で次々とこなしていたという。

野では、迅速な診断と的確な手術がものをいう。わずかな判断ミスでも命取りになるため、どんな場面でも対処できる豊富な経験を持った医師が名医の条件ともいえる。

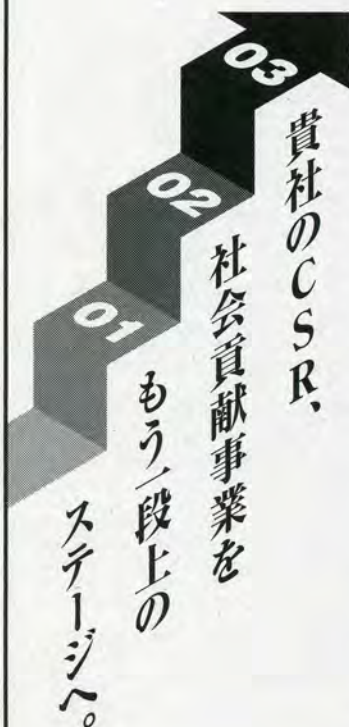
「帝京大学医学部附属病院院長の中込忠好先生は脳動脈瘤の開頭クリッピング術を得意としています。豊富な手術経験と幅広い知識を持つ信頼できる脳外科医です」（脳神経外科病院院長）

脳外科手術の中でも、くも膜下出血のクリッピング手術は、誰が執刀したかで術後の回復に大きく影響する。手術数約700例、未破裂脳動脈瘤では約270例の予防手術経験を持つ中

師 忠上、
宏 中（右）
明 達、
南 淵（左）
好 明、
白石 建
建 師



CSR Solution



社会環境が急速に変化し、投資家や消費者のニーズも多様化している現在、企業のCSRや社会貢献への取組にも新しい価値が求められています。日本財団は貴社の取組ステージに応じた社会的価値の高い事業の提案から実施までをお手伝いいたします。

お問い合わせ・資料請求は

コースサポート 検索

csr@ps.nippon-foundation.or.jp

 **日本財団**
The Nippon Foundation

込医師はこう話す。「手術の基本は注意深く、丁寧にとやるということです。くも膜下出血は治療がうまくいけば、かなりの人が社会復帰できる。それを可能にするために手術や術後の管理に努力します。順調に回復する(グッドリカバリ)」



正確で緻密なメスさばき(写真中央が南淵医師)

脊椎脊髄

筋肉をはぎとらずに温存する技術で痛みが少なく早期回復

割合は、3日以内に手術した人では8割です」
平均値は約5割といわれ

っており、他の医療機関と比べると社会復帰率の高さが際立つ。

整形外科の中でも慎重で精密な手術が必要とされるのが脊椎脊髄外科だ。脳からつながる中枢神経に関わる複雑な手術が多いため、最近では、脊椎脊髄専門のセンターを創設し、専門の外科医による手術を行なう施設が増えている。

その背景にあるのが、高齢化による脊椎脊髄疾患の増加だ。60〜70代に多い脊柱管狭窄症は、脊髄などが圧迫されて神経障害が起る病気だが、手足の痺れや歩行困難などの症状が出る

ため、手術を希望する人が多い。しかし、日本では脊椎脊髄外科専門医の数は少なく、技術に習熟した指導医の数は約1200人程度だ。それに対して、脊椎脊髄の手術数は年間5万例以上といわれている。脊椎手術のトレーニングが不十分な、一般整形外科医による手術も行なわれているのが実情だ。脊椎脊髄の専門外科医がいることを知らない患者も多い。

「脊椎の手術をしても後遺症が出てしまい、痛みが取れないという患者さんも多いのですが、それを解決して、しかも術後の回復が驚異的に早い手術をする医師がいます」

神奈川県の大学病院に勤務する整形外科医は話す。その名医が東京歯科大学市川総合病院整形外科の白石建教授だ。

一般に行なわれている脊椎の手術法では、頸椎の後ろ側に直接付いている筋肉を全部はぎとってしまうため、術後何年も頑固な首や肩の痛みなどが残る。

一方、白石教授が開発した「低侵襲脊椎手術」は、頸椎後方の隣り合う筋肉に本来ある隙間に着目し、その隙間を広げて骨へ到達する。背骨を後から支える筋肉を傷つけないため、身体への負担が少ない。「患者さんの多くは手術の翌朝から起きあがることができま

	医師名	病院名・肩書	解説
呼吸器外科	坪井正博 (つばい まさひろ)	横浜市立大学附属市民総合医療センター 一呼吸器病センター外科 准教授	3000件以上の肺がん手術を手掛けてきた技術の確かなに加え、抗がん剤治療、緩和ケアなど内科的治療を含む総合的なアプローチで治療に取り組む。北海道と福島県の民間病院での勤務時代は、専門以外の様々な手術も経験した。
	池田徳彦 (いけだ のりひこ)	東京医科大学病院呼吸器外科・甲状腺外科 主任教授	年間230件以上の肺がん手術を執刀・統括する。日本で初めて手術支援ロボット「ダヴィンチ」を肺がん、縦隔腫瘍手術に導入した。きめ細かく正確な診断・治療と患者一人一人の症状、年齢、体調などを十分考慮した治療力を入れている。
泌尿器外科	吉岡邦彦 (よしおか くにひこ)	東京医科大学病院泌尿器科 教授 東京医科大学病院ロボット手術支援センター センター長	日本で初めて手術支援ロボット「ダヴィンチ」を泌尿器科手術に導入し、前立腺がん、膀胱がんのロボット手術件数は国内最多を誇る。ロボット手術の国際学会では日本人で唯一、Faculty (才能) として選出されている。
	朝倉博孝 (あさくら ひろたか)	埼玉医科大学病院泌尿器科 診療科長/教授	排尿障害や尿失禁治療・手術を得意とするエキスパート。正確な診断、保存療法など低侵襲の治療法を心がけ、04年に日本の大学で初めて保険適用された新しい経尿道的手術用の特殊な電気メスを導入し、従来の技術で問題だった出血を少なくした。
	永尾光一 (ながお こういち)	東邦大学医療センター大森病院リプロダクションセンター(泌尿器科) センター長/教授	形成外科と泌尿器科両方の診療科部長を経験した専門医。マイクロサージャリーをはじめとする生殖医学領域(主に陰茎・陰嚢)の形成外科手術を得意とする。性機能障害(ED)治療や、泌尿器形成手術の名医として知られる。
食道	大杉治司 (おおすぎ はるし)	大阪市立大学大学院 医学研究科消化器外科 教授	食道がん治療の大家。術者として世界トップの技量を持つ。累積症例数は胸腔鏡手術約450例、開胸手術約600例。手術器具も独自開発。在院死亡率、合併症の削減、生存率向上などに大きな成果。知識・技術の普及にも努める。
	梶山美明 (かじやま よしあき)	順天堂大学医学部附属順天堂医院食道・胃外科 教授	消化管(特に食道がん、胃がん)の外科治療が専門。食道がんについては論文も多い。順天堂大学では食道がんについて伝統的に多くの症例を扱い、実績のみならず、医療チームとしての技術力の高さにも定評がある。
胃	北川雄光 (きたがわ ゆうこう)	慶應義塾大学病院 副院長/一般・消化器外科診療部長/腫瘍センター長/教授	専門とする消化器がん侵襲治療法の開発研究に熱心に取り組む。慶應大学は、先進技術を用いた低侵襲がん治療の分野において医学部内他部署と連携を図り、21世紀COEプログラム拠点のひとつにも選ばれている。
	宇山一朗 (うやま いちろう)	藤田保健衛生大学病院上部消化管外科 教授	腹腔鏡胃切除術の第一人者。胃がんの約9割を腹腔鏡で手術する。06年には、腹腔鏡による主膵膵膵の胃全摘手術も執刀。最新技術にも長く、手術支援ロボット「ダヴィンチ」導入による低侵襲手術をいち早く成功させる。
大腸	木下平 (きのした たいら)	愛知県がんセンター 総長	がんのエキスパート。国立がんセンター前名譽院長・海老原敏氏も認める凄腕。難治がんのスキルス胃がんの術前化学療法にも積極的に取り組む。患者第一の診療に信頼も厚い。今年、国立がんセンター東病院・院長より現職。
	梨本篤 (なしもと あつし)	新潟県立がんセンター新潟病院 副院長/手術部長	北陸地方の名医。症例数も多く、全国屈指の治療実績を維持している。日本胃癌学会総会・会長、新潟消化器病研究会・会長を歴任し、来々、胃外科・術後障害研究会・会長に就任する。胃がんに対する造詣も深い。
肝臓・胆	黒柳洋弥 (くろやなぎ ひろや)	虎の門病院消化器外科(下部消化管) 部長	国立京都病院、がん研有明病院で約1800件の大腸がん腹腔鏡手術を行なった名手。その高い技術と豊富な知識を買われ、現在は大腸がん腹腔鏡手術で全国トップクラスの症例数を誇る虎の門病院で、消化器外科部長を務める。
	高橋慶一 (たかはし けいいち)	がん・感染症センター都立駒込病院 大腸外科部長	大腸がんの開腹手術では、当代随一との呼び声も。過去には、「大腸癌治療ガイドライン」(大腸癌研究会編)作成委員も務めた。大腸がんの集学的治療、在宅治療を専門とする。日本在宅医療学会理事としての活動にも携わる。
肝臓・胆	渡邊昌彦 (わたなべ まさひこ)	北里大学外科 科長/教授 北里研究所病院 内視鏡手術センター長	大腸疾患の診断・治療、特に内視鏡外科手術を専門とする。92年には、日本で初めて大腸がんの腹腔鏡手術を導入し、大腸がん治療の権威でもある。国内のみならず、海外でも腹腔鏡手術の技術指導を行なう。
	猪飼伊和夫 (いかい いわお)	国立病院機構京都医療センター外科 統括診療部長(肝臓脾責任者)	肝臓脾外科(肝臓がん、胆道がん、脾臓がん)を専門とする。京都医療センター・がん医療研究室では、胆道がんの術後再発症例と非切除症例の予後の違いについての適反の検討ほか脾臓、肝臓などの分担研究にも参加している。
肝臓・胆	上坂克彦 (うえさか かつひこ)	静岡県立静岡がんセンター 副院長/肝・胆・脾外科部長	手術のきわめて難しい上部肝門部胆管がんに対し高い解剖学的知識で正確な診断をし、安全かつ綿密な手術を行なう。また、難治がんである脾臓がんの治療成績向上のため集学的治療や治療法の技術開発に積極的に取り組む。
	山本雅一 (やまもと まさかず)	東京女子医科大学消化器病センター消化器外科 主任教授	肝・胆・膵臓の分野で症例数、難易度ともにトップを走る東京女子医大。85年に同大消化器外科肝脾科グループに所属して以降、肝がんの外科病理・肝がん外科臨床研究に長く携わる。また、胆道がん手術の名手としても知られる。

呼吸器

肺がん手術で出血100cc以下
死亡率0.66%を誇る

がん治療は手術、放射線、化学療法が3大治療として定着し、手術を行なうのは、比較的早期のがんであることが多い。進行がんの生存率は、いくらい手術をしても、下がってしまうのが普通だ。

「とはいえ、術後のトラブルの有無、術後の回復に手術の良し悪しが大きく影響します。丁寧できちんとした手術をすれば、術後の回復が早い。国立がん研究センター東病棟の吉田純司先生は、肺がん手術でもっとも信頼できる医師の一人です」(都立病院がん専門医)

外科医の腕を知る重要な目安の一つに、出血量がある。もちろん、出血量が少ない手術が理想だ。一般的には1000〜2000ccぐらいといわれているが、吉田医師の執刀は100cc以下、時には10ccで済む場合もある。

吉田医師は外科医としての心構えをこう話す。



吉田純司医師(左上)、吉岡邦彦医師(右上)、大杉治司医師

日本が誇る34人のゴッドハンド外科医

『週刊ポスト』次号(9月21・28日号)は9月10日(月)発売です

一部地域で発売日
が異なります

	医師名	病院名・肩書	解説
心臓外科	南淵明宏 (なぶち あきひろ)	東京ハートセンター センター長／上 席心臓外科医	年間200件近い手術を行い、累計執刀数は3000件を超える。低侵襲冠動脈バイパス手術の中でも負担の少ないミッドキャブでは他の追随を許さない。98年に子供へのこの手術を世界で初めて成功させた。ジャーナリスト・江森弘氏など著名人への執刀も多い。
	大川育秀 (おおかわ やすひで)	豊橋ハートセンター 副院長	31歳の時から現場を一人で任せられ、96年3月末に日本で2例目となる人工心臓を使わないオフポンプの低侵襲冠動脈バイパス手術を行なった。手術レベルの高さに加え、患者の立場を考えた総合的な治療を目指し、最良で安全な手術を常に心がけている。
	佐野俊二 (さの しゅんじ)	岡山大学医学部附属病院副院長 心 臓血管外科教授	先天性の心臓病「左心低形成症候群」の小児の超難関手術で成功率9割という実績を誇る。その「Sano手術」は世界のスタンダードとなり、世界有数のゴッドハンドとして知られる。上記の南淵明宏氏も師事した。
	道井洋吏 (みちい ひろさとし)	札幌ハートセンター札幌心臓血管クリ ニック 院長	クリニック開設2か月半で手術数100件を突破し、道内で最多の症例を誇る。無症 状で突然死もありうる肥大型心筋症の治療法である心筋切除術を手がける医師は国 内では少ないが、北京でも同術式を行ない、経験豊富だ。
	東上震一 (ひがしうえ しんいち)	岸和田徳洲会病院 病院長	患者を断らない医療を方針に、緊急症例にも365日24時間対応する。10年1月には合併 症のある心不全患者としては国内最高齢となる92歳の女性の手術に成功。心臓血管外科は 90年の診療開始以来、6000件以上の手術を行ない、国内でもトップクラスの手術数を誇る。
脳神経外科	中込忠好 (なかごみ だたし)	帝京大学医学部附属病院 病院長／ 脳神経外科診療科長／主任教授	脳動脈瘤、良性脳腫瘍、脊髄疾患が専門、脳外科の重鎮。くも膜下出血など脳出 血に精通し、脳動脈瘤の開頭クリッピング術に長ける。研究分野の脳血管神経 (れん んいやく) の発生予防により、社会復帰可能なグッドリカバリー率は8割と高い。
	上野俊昭 (うえの としあき)	帝京大学医学部附属病院脳神経外科 外来医長／医局長／准教授	マイクロカテーテルを用いる脳血管内治療技術は全国でも屈指。脳動脈瘤、脳動脈 静脈畸形、硬膜動静脈瘤などの塞栓術、および頸部や頭蓋内血管の狭窄病変のステン ト留置を含む血管形成術を行なう。
	伊達勲 (だて いさお)	岡山大学病院脳神経外科 科長／教 授	脳動脈瘤、脳腫瘍を中心に脳神経外科全般の手術を網羅し、実績・研究・指導力と 三拍子揃う。中枢神経系の再生・移植、血管生物学などを研究。電気刺激による脳 梗塞抑制を確認するなど、新しい治療法の開発にも精力的。
	西川亮 (にしがわ りょう)	埼玉医科大学国際医療センター脳脊髄 腫瘍科 診療科長／教授	悪性脳腫瘍の集学的治療、脳下垂体腫瘍が専門。高次脳機能を生温する転移性脳 腫瘍の治療法確立など、分担保険にも複数取り組み、小児の脳腫瘍 (髄芽腫、胚 細胞腫、上衣腫など) についても関心が高く、積極的に尽力。
	成田善孝 (なりた よしたか)	国立がん研究センター中央病院脳脊髄 腫瘍科 副科長	神経膠腫 (グリオーマ) など悪性脳腫瘍が専門。神経膠腫における国立がん研究セ ンターの手術・症例数は全国でも有数で研究も盛ん。術中MRIを用いた手術実績や、 新規の薬物療法による治験、放射線化学療法などで治療成績の向上へ寄与している。
	森田明夫 (もりた あきお)	NTT東日本関東病院 脳神経外科部 長／脳卒中センター長	脳腫瘍、脳血管障害、聴神経腫瘍、髄膜腫、脳動脈瘤、脊髄腫瘍、ヘルニア、 定位脳外科 (パーキンソン病など)、三叉神経痛・顔面痙攣など、特殊専門は多岐 にわたる。動脈瘤の実習用模型を作ると、後進の育成にも熱心。
	若林俊彦 (わかしん としひこ)	名古屋大学医学部附属病院脳神経外 科 部長／教授	専門には悪性脳腫瘍、中枢神経腫瘍の遺伝子・細胞療法の開発を研究し、生存率を 延ばすことに貢献。名古屋大学は、新規抗がん剤テモゾロミドについて放射線治療 やインターフェロンの併用を研究、治療法の進歩を牽引する。
整形外科	白石建 (しらいし てる)	東京歯科大学市川総合病院整形外科 部長／教授	「低侵襲脊椎手術」を開発。頸椎後方の筋群を生温し、後遺症のほぼない革新的な 術式で世界から注目を集める。海外からの技術輸入も含め、腰椎疾患にも低侵襲 手術を採用。頸椎症性脊髄症の治療法など世界初の実績が多い。
	齊藤正史 (さいとう まさし)	慶友整形外科病院 副院長	脊柱側弯症治療のエキスパート。年間約900例という膨大な症例数をこなし、圧制 的な手術技術を誇る。難易度の高い手術にも正確な技術を発揮し、変形した脊柱を まっすぐに戻す手術には、同領域の医師からの信頼も厚い。
	鷺見正敏 (すみ まさとし)	神戸労災病院 副院長／整形外科部 長／勤労者腰痛センター長	脊椎脊髄外科を専門とし、頸椎症性神経根症、頸椎症性脊髄症に精通する。学術的 にも秀で、米国で最も権威のある学会でも度々、演題が採用され、09年には最優 秀論文賞。昨年発足したNPO法人兵庫脊椎脊髄病医療振興機構の理事長も務める。
	竹林庸雄 (たけはやし つねお)	札幌医科大学附属病院整形外科 講 師	専門は脊椎外科。北海道地区で「低侵襲脊椎手術」を手がける。患者の負担を極 力抑える丁寧かつ精密な手術には、定評がある。マイクログリア細胞に着目した病 みの長期化を研究。日本運動器疼痛学会の理事。
呼吸器 外科	吉田純司 (よしだ じゅんじ)	国立がん研究センター東病院呼吸器外 科 医長	縦隔で丁寧、正確な手術による出血量の少なさを定評がある。同科の07～11年の 原発性肺がんに対する術後30日以内の死亡率は、1374例中9例 (0.66%) という 成績を誇る。臨床研究にも力を入れ、国内外の学会で積極的に論文を発表している。

泌尿器

前立腺がん手術に医療ロボットを
導入し安全に性機能を温存

肺がんは難治性がんの代
表で、手術後も闘病生活を
続けなければならない患者
も多い。横浜市立大学附属

肺がんは難治性がんの代
表で、手術後も闘病生活を
続けなければならない患者
も多い。横浜市立大学附属

肺がんは難治性がんの代
表で、手術後も闘病生活を
続けなければならない患者
も多い。横浜市立大学附属

肺がんは難治性がんの代
表で、手術後も闘病生活を
続けなければならない患者
も多い。横浜市立大学附属

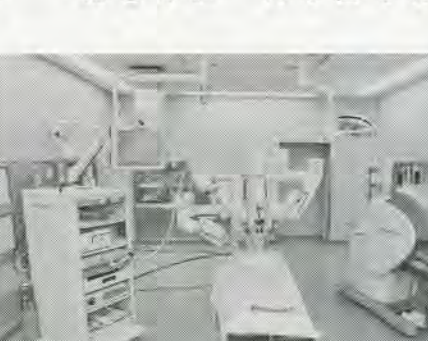
肺がんは難治性がんの代
表で、手術後も闘病生活を
続けなければならない患者
も多い。横浜市立大学附属

前立腺がん手術の後遺症
に勃起機能不全 (インポテ
ンス) や尿失禁がある。命
には代えられないとはいえ、
機能を失わないで済む手術
を切望する男性患者は多い。
そんな気持ちに応えてくれ
る医師がいる。

東京医科大学病院ロボッ
ト手術支援センターの吉岡
邦彦教授 (泌尿器科兼務) は、
機能温存や安全性に優れた
最新医療ロボット「ダヴィ
ンチ」を、日本で最初に導
入した。

「機能を温存する最先端の
治療に取り組んでいます。
96年に始まった腹腔鏡手術

市民総合医療センター呼吸
器病センター坪井正博准教
授は、3000例もの手術
を手掛けてきた経験豊富な
外科医だが、緩和ケアにも
力を入れ、患者に寄り添う
医療を実践している。



吉岡医師が導入した医療
ロボット「ダヴィンチ」

は、腹部に小さな穴を開ける傷の小さい手術ですが、

出血時の対応や操作の難しさなどが難点です。それを

克服したのがダヴィンチです。操作しやすく、出血も

少ない上、傷も小さくて済む。腹腔鏡の進化系といっ

ていいでしょう(吉岡医師)

前立腺は恥骨の真裏にあり、正面から見えないため、

開腹手術でも手探りの手術を余儀なくされてきた。手

元が狂うと側にある直腸を傷つける可能性がある。その

リスクを減らしたのもダヴィンチだ。ロボットカメラ

を体内に入れて、3D立体画像を見ながら、8〜12

ミの非常に小さいロボット鉗子などを動かして手術を行なう。これまで見られな

かった手術部位を直視下でみることができたため、安

全性も格段に高まった。

米国では前立腺手術の85%がダヴィンチによるもの。

日本では今年4月から「ダヴィンチ手術」が保険適用

となり、9月時点では全国60か所で導入される予定だ。

前立腺肥大症の治療で有

名医の手術を受けるには

本稿で登場した手術はどの

くらいの自己負担額で受ける

ことができるのか。目安となる一般的な金額を紹介する

(入院費を除く)。

●冠動脈バイパス手術 27万4050円

●開頭クリッピング術 24万8190円

●椎弓形成術 6万5100円

●肺がん開胸手術 18万1050円

●前立腺がん手術(ダヴィンチ使用) 28万5840円

●食道内視鏡手術 6万6300円

これらの金額は診療報酬点

数で決められており、名医の手術だからといって高額になることはない。高額療養費制度を利用すれば、ここから減額される(減額分は年齢・収入で異なる)。

今回登場する名医は、受診希望の患者が多い医師ばかりなので、予約が取りにくいこととあるのに要注意だ。紹介状が必要な場合もあるので、受診を希望する場合は各医療機関に問い合わせしてほしい。

また、今回紹介した34人以外にも、名医と呼ぶべき医師は全国にたくさんいる。かかりつけの病院などで情報を集めてみるのも賢い方法だ。

消化器

1000例超の手術で腕を磨いた 食道がん胸腔鏡手術の名医

名なのが埼玉医科大学病院泌尿器科の朝倉博孝教授だ。前立腺を温存する治療を心

がけ、逆行性射精(精液が膀胱に流れ込む障害)の予防に力を入れている。

「消化器外科の場合、10年も手術に携わると、ある程度の水準を維持できます。その上で症例数を積み重ねた医師が名医といえます」

(前出・喜多村教授)

大阪市立大学大学院医学研究科消化器外科の大杉治

ば1000例は下らない。

10数名しかいない日本内視鏡外科学会の食道がんの根治術の資格を得た医師の一人でもある。

「食道がんの手術は、がんの中でも最も大がかりで、有効性も高い。手術症例が多い施設ほど、在院死亡率が低く成績がいい傾向があります」(大杉教授)

日本の食道がん手術は欧米と比べると精密で、技術レベルも高い。そのため、0〜1期の食道がん5年生存率は70%、2期で50〜60%と欧米の2倍だ。

注目すべきは、胸腔鏡手術の精度が向上し、リンパ節転移のあった患者の生存率が20%近く上がっていること。

「私自身、胸腔鏡技術が磨かれることで、郭清すべきリンパ節を的確に処理できるようになった。出血が少なく、手術が短時間で終わり、合併症も減り、安全性が高い。それが生存率向上に役立ったと思います」(大杉教授)

名医の条件はそれだけではない。

「がん患者さんの多くは糖尿病や高血圧、動脈硬化などの持病を抱えている人が多い。手術をしたとしても、術後様々な合併症が現われる。生死を分けるのは術後のトラブルの有無です。各科と連携できる総合力を持つのが名医のあるべき姿でしょう」(前出・喜多村教授)

消化器外科の場合、手術技術が重視される心臓外科医とはおのずから違う。技術だけではなく、患者の年齢や健康状態を総合的に見ながら、術後の管理をきちんとしていける組織力が重要だという。

*

登場した医師たちは「名医の条件」について、

「患者さんのために昨日よりも今日、今日よりも明日、もっといい手術をするべく日々努力すること」

と異口同音に答えた。もちろん手先の器用さや集中力などの才能は必要、だろうが、やはり患者のために尽くしたいという哲学こそが、「ゴッドハンド」であるゆえんなのだろう。